Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市

令和８年１１月５日
報道発表資料
川崎市消防局

川崎市救急情報共有システムの運用を開始します

川崎市では、増加する救急需要への対応として、救急隊と医療機関との情報共有を効率化し、救急活動時間の短縮に資する「川崎市救急情報共有システム」の運用を令和８年１１月１０日（火）から開始します。

本システムは、救急隊がタブレット端末を使用して身分証明書から読み取った文字情報や受傷部位の画像等、見える化した傷病者情報を医療機関にリアルタイムに共有するものです。これにより、傷病者情報を従来より正確かつ円滑に伝達できるようになり、医療機関との連携強化、市民サービスの向上及び救急隊の負担軽減を図ります。

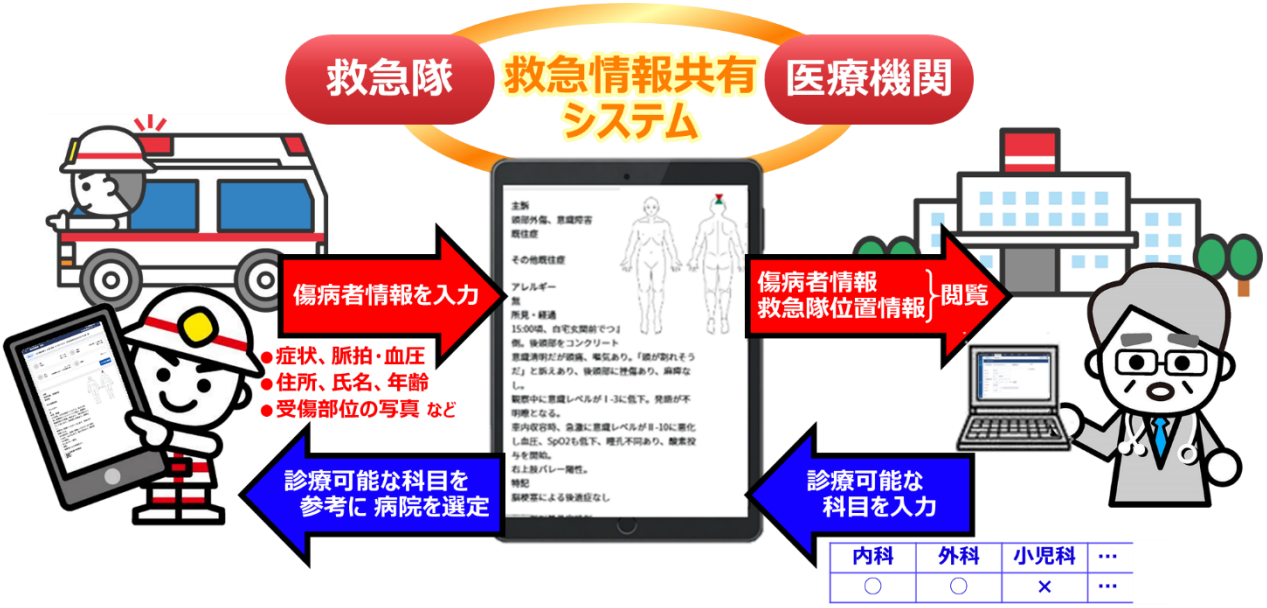
1 事業の背景・目的

川崎市では救急需要が増加傾向にあり、**令和７年中の救急出場件数は９１，１５７件と過去最多を記録**しました。このような状況を踏まえ、救急活動時間の短縮や、救急要請に対して直ちに出場できる体制の確保、救急隊員の負担軽減を目的として、デジタル技術を活用した「川崎市救急情報共有システム」を導入し、救急隊と医療機関との間で正確かつ効果的に情報共有を行います。

2 システムの仕組み

これまで、救急隊は現場で聞き取った情報や傷病者を観察した結果を、**電話により口頭のみで**医療機関に伝えていました。

本システムの導入により、救急隊はタブレット端末を使用して身分証明書から読み取った文字情報や受傷部位の画像等、**見える化した傷病者情報**を医療機関に共有できるようになります。



3 期待される効果

医療機関との連携強化

- 情報の見える化により、救急隊から医療機関に正確な傷病者情報を共有することで、より適切な医療機関に搬送することが可能となります。

市民サービス向上

- 医療機関での受入可否の判断が早まり、搬送するまでの時間が短縮できます。
- 医療機関では正確な傷病者情報をもとに、治療の準備を速やかに実施できるため、治療開始までの時間を短縮できます。
- 効率的な情報伝達により救急隊の活動時間を短縮し、次の救急要請に直ちに対応できる体制を確保します。

救急隊員の負担軽減

- 音声認識や画像に含まれる文字を読み取る機能（ＯＣＲ）により、情報入力にかかる時間を短縮できます。
- 現場で入力した内容を報告書に反映することで、事務作業を効率化できます。

4 運用開始日時

令和８年１１月１０日（火）８時３０分

5 参画医療機関

市内の救急告示医療機関等のうち、本システムの運用に御協力いただける２５機関

※横浜市内の救急告示医療機関のうち、当市からの搬送件数が多い４機関にも令和８年度中に参画いただく予定です。

6 市民の皆様へのお願い

スムーズな搬送のため、救急隊の活動への御理解と御協力をお願いいたします。

- **救急隊員がタブレット端末で受傷部位や事故状況等を撮影する場合があります。**
- **氏名等の情報を取り込むため、身分証明書やお薬手帳等を読み取らせていただく場合があります。**

7 実証実験の結果

令和６年１１月から令和７年３月まで市内の北部及び中部の一部医療機関と連携して実施した本システムの導入に向けた実証実験において、救急隊の平均現場滞在時間は北部で０．４分、中部で１分、それぞれ市全体よりも短くなりました。また、救急隊と参加医療機関を対象としたアンケート調査では、情報伝達の正確さが向上した、外傷部位の写真により迅速に受入れ可否の判断ができたなど、有効性を実感した旨の回答がありました。

問合せ先
川崎市消防局警防部救急課　並木
電話　０４４－２２３－２６０４
内線　４８４０５